

# 2206A 22マチックレディ ウィークデー

## 1) 仕様

機械落径	17.20mmφ
機械厚ミ	5.85mm
テンブ振動数	28,800回/時
自動巻（手巻装置付）	
カレンダー（日付・曜日・	
曜文字和英切換機構・	
リュウズ回転式日曜早修正装	
置付）	

## 2) 特長

分解・組立が容易で、機能の安全性を充分考慮して設計された部品点数の少ない高振動時計です。また、ロードマチックと同様の機能をもった多機能な婦人用腕時計です。

## 3) 分解・組立

分解は、図の番号の①～⑥の順序で分解してください。組立は、図の番号の⑥～①の順序で組立ててください。

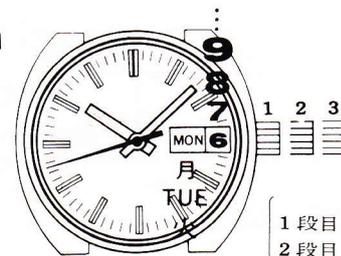
## 4) 注油

図中でつぎの記号は、油の種類・量・注油箇所を示します。

- 種類
  -  メービス A
  -  メービス V
  -  セイコーウォッチ油 S-6
- 注油量
  -  多めに
  -  標準量
  -  極く少量

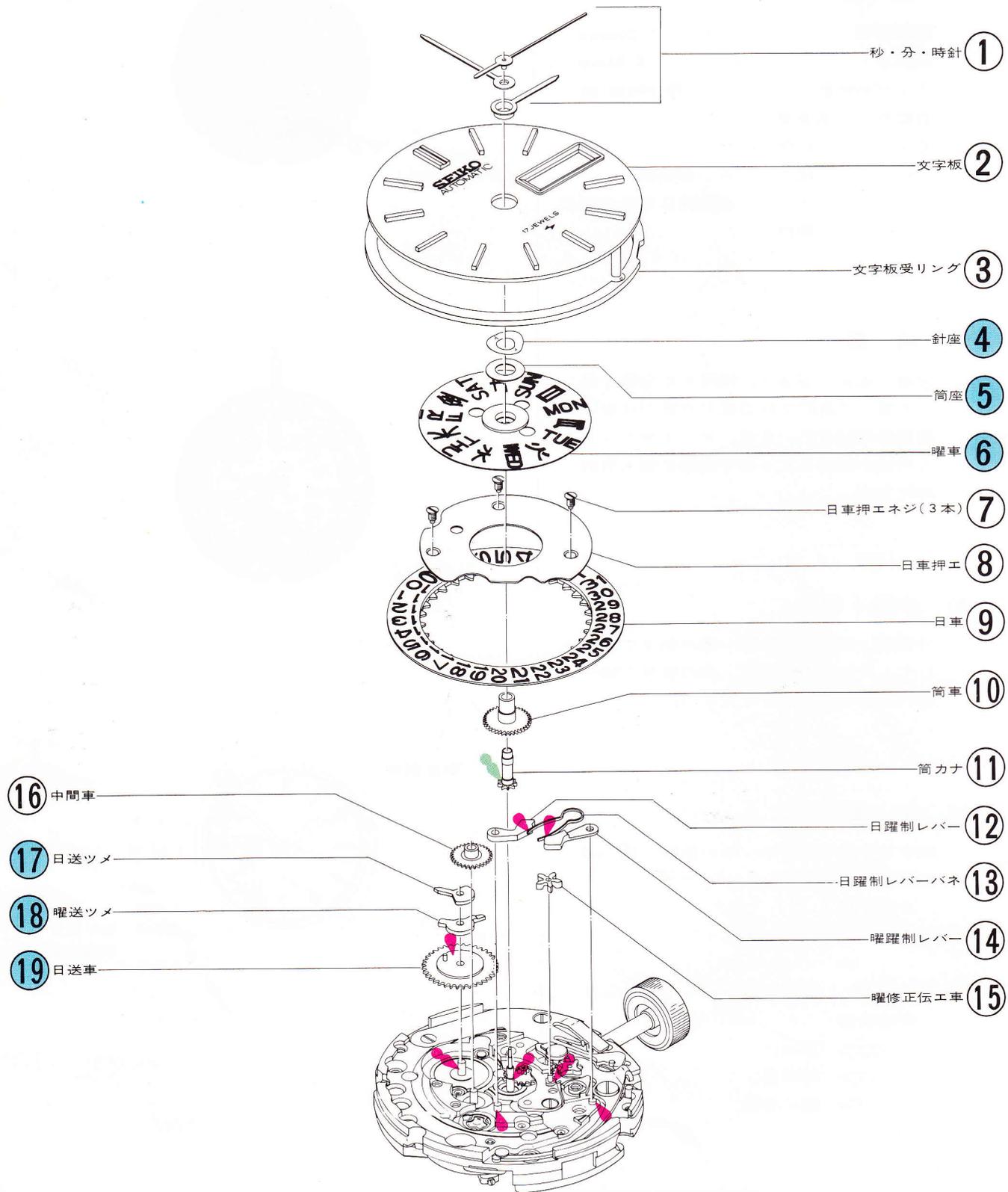


取扱説明

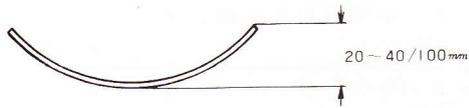


- 1 段目    ゼンマイ巻
- 2 段目    (右)日修正
- (左)曜修正
- 3 段目    針合せ

# 2206A カレンダー機構



④針 座



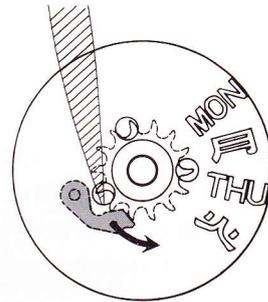
文字板の厚み程度に曲げてください。  
曲げすぎても平らすぎても曜送不良の原因となります。

⑤筒 座

筒座がついているモデルとついていないモデルがあります。  
筒車アガキが 10/100mm 以上のとき使用します。  
(輪列、車、アカギの2~3倍)

⑥曜車の取付け方

曜躍制レバーはみえません。ピンセットやサグリ棒を  
曜車の窓穴に入れ曜躍制レバーを逃がしながら曜星車  
とかみあわせてください。

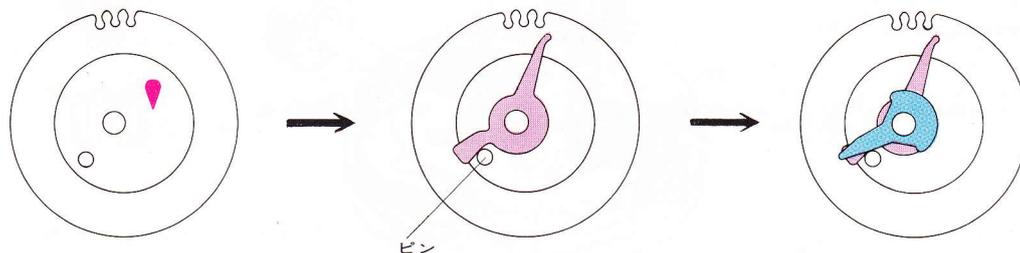


⑬・⑭・⑮日送ツメ、曜送ツメ、日送車の組合せ

上記3部品は金色と銀色の2種類があります。  
地板にたっている日送車ピンの偏心のある、なしで金  
色系と銀色系を使いわけてください。

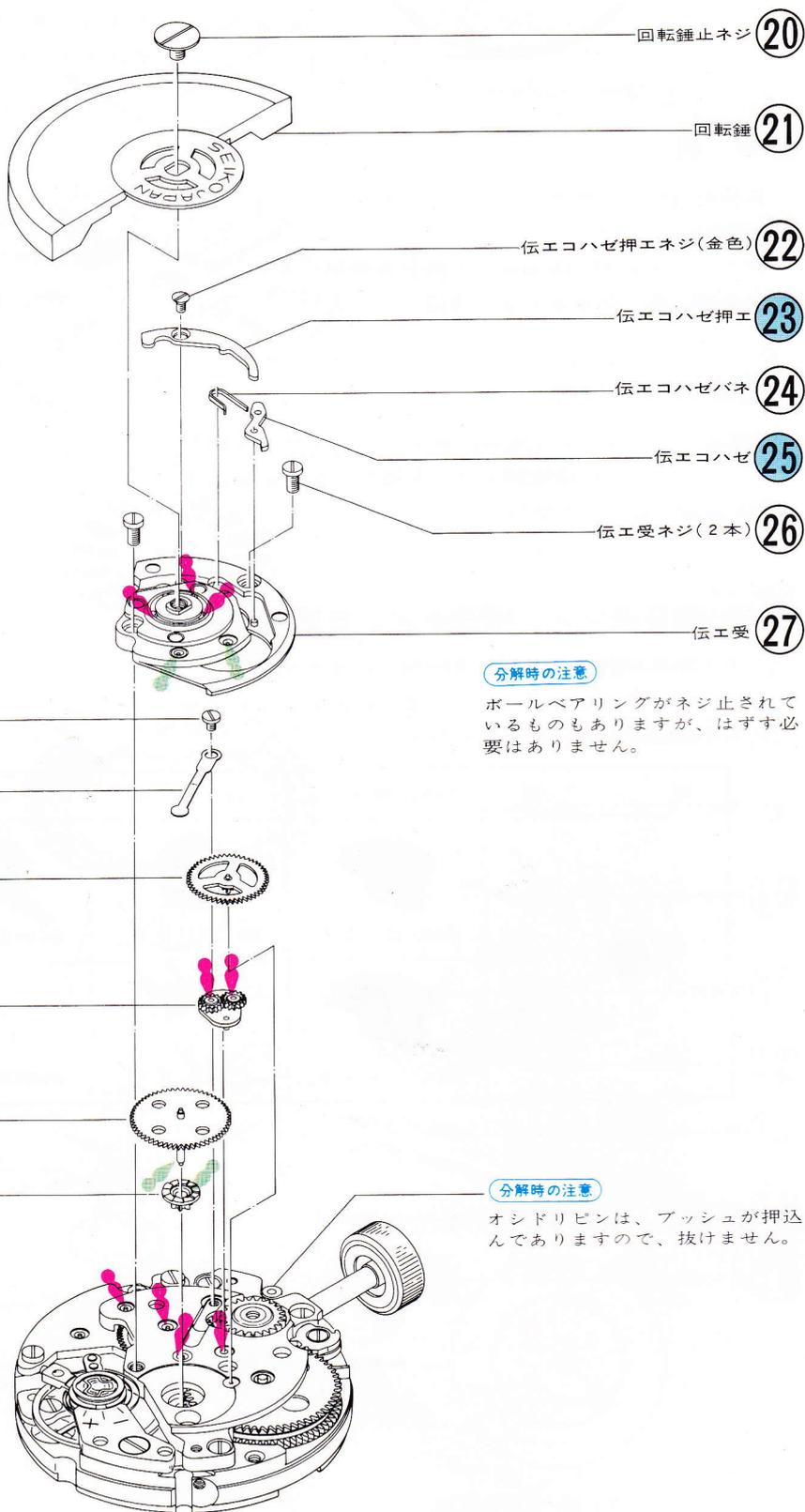
地 板	(日送車ピン)	日 送 車	曜 送 ツ メ	日 送 ツ メ
	 偏心ピンなし	 802221(銀色)	 868220(銀色)	 556221(銀色)
	 偏心ピンつき	 802222(金色)	 868221(金色)	 556222(金色)

⑬・⑭・⑮日・曜送ツメの取付け方



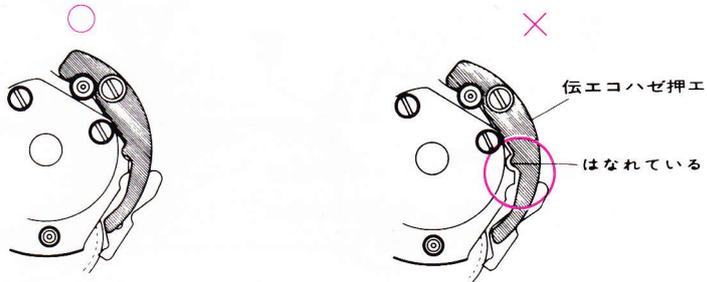
日送車上面へ少量注油

# 2206A 自動巻機構



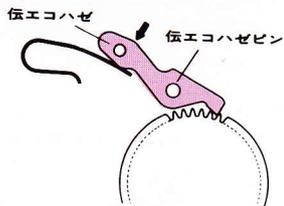
②③ 伝エコハゼ押エの取付け方

伝エコハゼ押エを、受の中心部によせながら、ネジを十分に締めてください。  
はなれていると回転錘が伝エコハゼ押エにすれる場合があります。



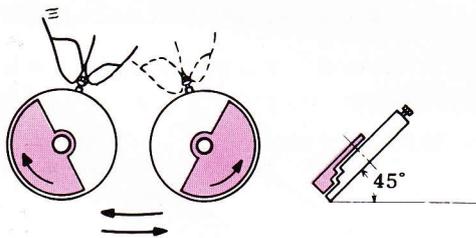
②⑤ 伝エコハゼ

組立時の注意



回転錘を指で回して伝エコハゼが軽く作動するかチェックしてください。バネの力で軽く戻らない場合は、伝エコハゼピンにメービスAを少量塗布してください。油量が多いと油が流れて作動不良となりますので注意してください。

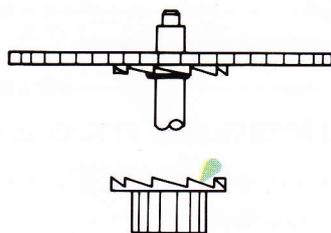
③① 遊動車の作動チェック (回転錘取付後のチェック)



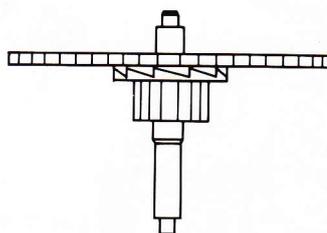
ゼンマイを角穴車1回転ぐらい手巻きした後、時計を45°ぐらい傾け、左右にユラユラ振って回転錘が滑らかに動くかチェックしてください。  
コツコツ手ごたえのある場合は、回転錘が伝エコハゼ押エにすれているか、遊動車の作動不良です。  
遊動車不良の場合は、遊動車を交換してください。

③②・③③ 二番伝エ車、二番伝エ下歯車の取付け方

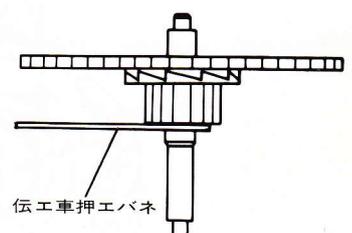
注油する



二番伝エ車と二番伝エ下歯車をセットする

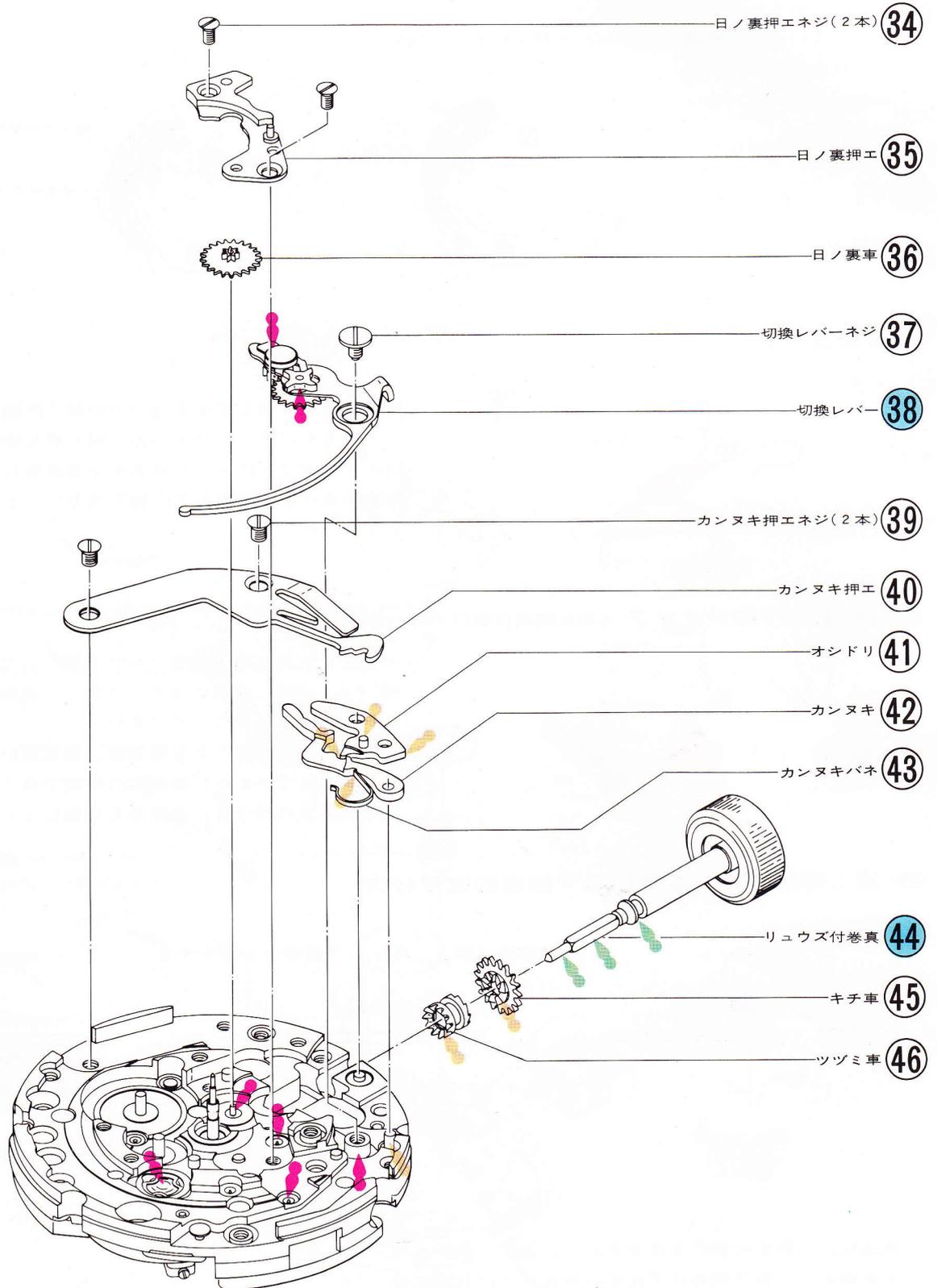


器械に組込む

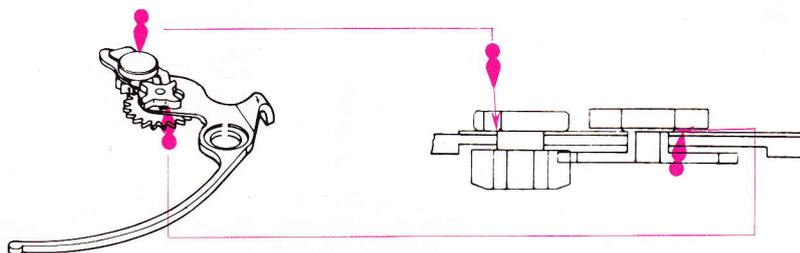


組込後、一番受の裏にネジ止されている伝エ車押エバネ先端が、一番受側面にすれずにスムーズに上下するか確認してください。

2206A 切換機構

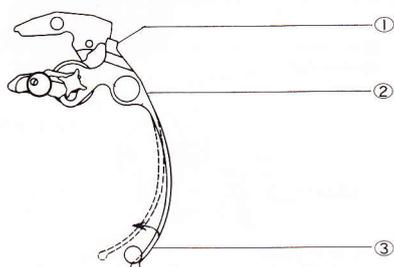


③⑧ 切換レバーへの注油 (揺動レバー部、修正歯車部)



注油が多すぎますと、切換レバー体と揺動レバーとが粘着して、揺動レバーの動きが悪くなります。

③⑧ 切換レバーの取付け方

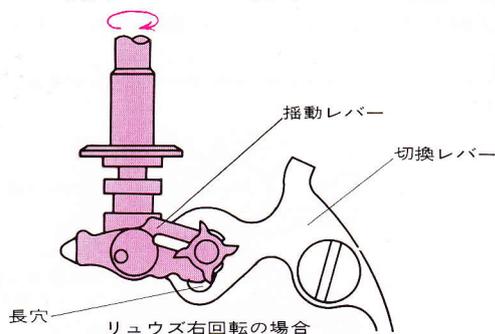


巻真を一段目にして

①, ②, ③の順序でセットします。

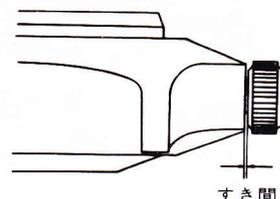
③⑧ 切換レバー作動具合の点検

巻真を二段目に引き出して、リュウズをゆっくり左右に半回転ずつさせてください。揺動レバーが軽く切換レバーの長穴いっぱい揺動すれば良好です。



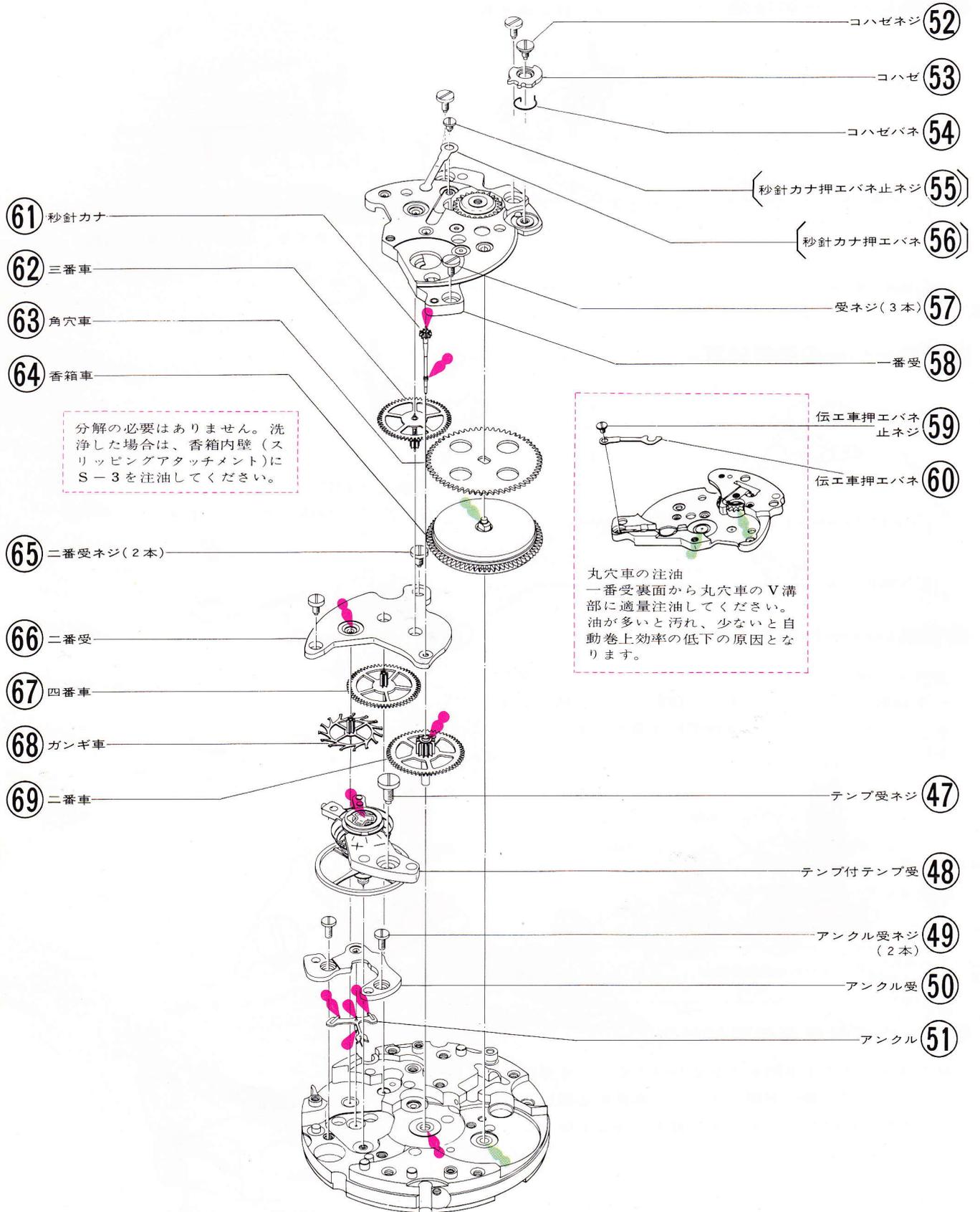
④④ リュウズ付巻真の取付け方

側とリュウズのすき間をできるだけ少なくしてください。リュウズに強い衝撃を受けても巻真が必要以上に押込まれないので、リュウズが引き出せなくなるような事故が防げます。



すき間を0.15mm以下に修理してください。

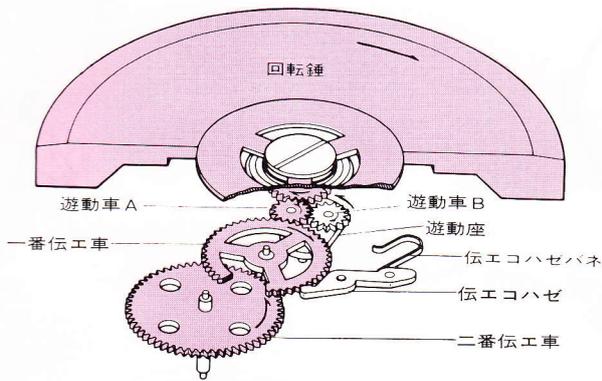
# 2206A 輪列调速機構



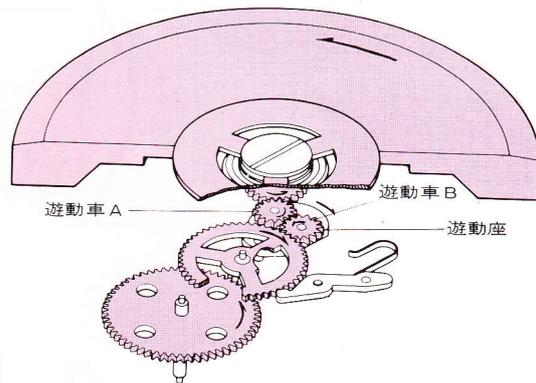
自動巻機構作動説明

1. 巻上機構

回転錘が右回転の場合



回転錘が左回転の場合

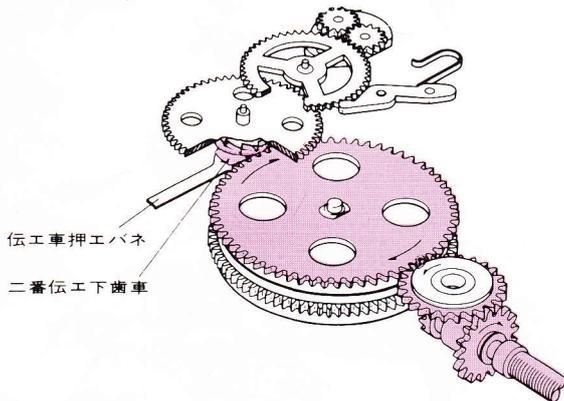


回転錘の回転方向により遊動座が遊動し、遊動車A、またはA・Bを駆動させます。

2. クラッチ機構 (二番伝エ車、二番伝エ下歯車)

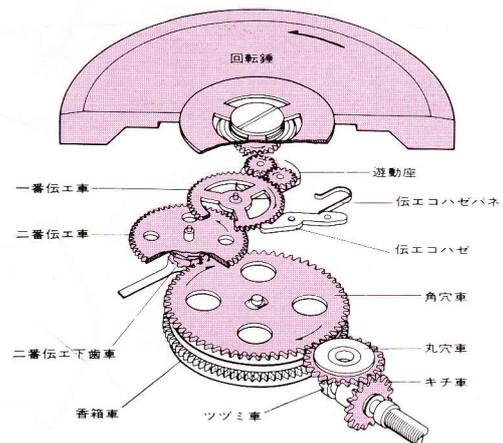
ゼンマイの自動巻上げと手巻の両方を可能にする装置で、キチ車とツツミ車のかみあいとまったく同じです。

手巻の場合



二番伝エ車と二番伝エ下歯車は、スリップします。

自動巻上げの場合



二番伝エ車と二番伝エ下歯車は、かみあって角穴車に力を伝えます。

カレンダー機構作動説明

下図で赤くぬられた部品がリュウズからの回転力を伝達する役目をしています。

